

高校の先生 ○…十分だ ×…十分ではない

問8:こどもたちの読書環境は十分だと思いますか? 《理由》	
○	<ul style="list-style-type: none"> ・読まないだけで、読める環境は十分すぎる程ある。 ・読もうと思えばいくらでも読める環境だと思います。 ・図書館など本にふれる機会の設備はよく整っていると思う。 ・図書館の本が充実している。 ・学校の図書室そして図書館を利用すれば、どんな本でも読めるから。 ・市民図書館ができて、利用しやすいから。 ・インターネットもあり、昔にくらべ本が手に入りやすい。 ・学校、市内に図書館がある。 ・毎日の朝読書。 ・寮生活で部屋にテレビがなく、本を読む機会が多い。又、貸し借りが容易。 ・本を買うにはお金がかかるが借りることもできるので。 ・市、学校、移動と図書を借りて読もうとすればすぐにできる環境にあると思う。 ・図書館の充実、大手古本屋の進出など環境は20~30年前より大いに整っている。
×	<ul style="list-style-type: none"> ・小、中学校に図書館司書を置いていない。蔵書が少ない。宇佐市民図書館行く手段がない。 ・課題(宿題)が多くて多分読む暇がないと思う。 ・時間がない。 ・わくわくするような本屋がない。 ・読む習慣のないこどもたちにとって、時間の制約が厳しい。(読むのに十分な時間がない) ・図書館や書店で手に取ることが出来る本が少ない。 日々の授業や課題への取り組みに多くの時間をとられるため。余裕がない。 ・小・中の図書館に司書がいらない。 ・良質な資料の良質な案内がとても少ない一方他の情報の絶対量が多い。 ・活字離れが進む中、敢えて読書の時間を作らなければ読まない子どもが増えているが、勉強や部活等でなかなか時間がとりにくいため。 ・活字文化が、消費文化に対し劣勢だから。 ・受験勉強で読書をする心のゆとりがないと思う。 ・時間がない。興味をもたない。 ・「本を読む」という時間がどんどんなくなっている様に思う。(携帯に依存して) ・活字ばなれによる、読書が習慣化できていない。 ・読むこどもも読まないこどもの二極化が激しい。 ・読ませたい本が充分でない。予算の関係。 ・娯楽が多すぎる。学習に追われ、余裕がない。 ・読む機会が十分にない。 ・本をゆっくり楽しむ場所や時間の確保の問題。(本以外の遊び道具も多いこと&学校に制約される時間が多いこと。) ・本屋が少ない。種類も少ない。情報も少ない。 ・図書館に行く機会が少ない。 ・とにかくケータイ電話をいじっている時間が多い。 ・“紙面で”、“活字そのものに”触れる機会よりも電子媒体でメモ書き程度の文章しか扱わなくなっているのも、他、TV、メディア等に負けている。など。 ・意識づけが必要。

高校の先生 ○…十分だ ×…十分ではない

問8:こどもたちの読書環境は十分だと思いますか? 《理由》	
×	<ul style="list-style-type: none"> ・IT機器、メディアの拡大により、在庫は十分すぎるくらいあるのに活用できていない。 ・テレビ等の普及。 ・本を読む習慣がないから。 ・視聴覚図書(DVDなど)の視聴できるなど、青少年の興味にもっとよりそうことも大切。インターネットの準備。 ・本校の蔵書は古く(新刊もありますが)、生徒達にとっては魅力的ではないような気がします。 ・学校図書館の充実が必要。 ・十分とは言えないでしょう。機会のあるたびに、本に触れさせるようにしたいものです。授業でも努めたいと考えています。 ・読書を楽しむ大人の姿を見る機会が少ないような気がします。 ・クラスに文庫みたいなものがそろるとよい。 ・読書環境はむしろ「壊されている」と感じる。パソコン、インターネットの普及で、すぐに結論(結果)が現れることに慣れ、じっくり考えたり、迷ったりすることを、マイナス、と捉える風潮が生まれ、読書そのものを、回転の悪い情報としてみることにつながり、手を出さなくなるのでは…。 ・インターネット、テレビ、ゲーム等に時間を使いすぎている。 ・柳ヶ浦高校から図書館が遠く、簡単には行けない。 ・現在はゲーム、ネットなど、他に興味を持ちやすい傾向にあると思う。 ・本よりも、携帯電話の方が手軽で、本を開いて読む週間が少ないと思う。 ・図書スペースが狭い。 ・日々の学習に追われ、読書する時間がとれない。 ・本が少ない。 ・少し時間が短い。 ・携帯電話の普及により、読書をする生徒が減っている。 ・担任が朝のHRに余裕がなく十分に指導ができない。本を持たない生徒が多く、興味のある本がないと言われる。 ・学校図書が少ない。本の絶対数もそうだが、学校の施設の広さ、利用時間等の関係もある。 ・読書する時間が少ない。(社会体育等)
両方	<ul style="list-style-type: none"> ・よく見れば環境は整っているが、意識は高揚していない。
なし	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の図書館の予算が少ないので生徒の希望に十分答えられてはいない。 ・どちらでもない というか読書に興味のある子どもには、それなりに十分だと思いますが、興味のない子が多すぎる為なんとも言えない。

高校の先生

問9:どのようなことをすれば子どもたちが本を読むようになると思いますか？

- ・子どもたちの読みたい本を極力図書館に置くようにする。
- ・読書感想文を書かせることなく、ただ読むようにする。
- ・①テレビ、ケータイ、ネットを使用禁止にする。
- ②小学校入学前の段階でタブリ読み聞かせの面白さを味わわせる。(それ以降はムリ)
- ・大人が読む姿勢を見せる。
- ・大人が読んでおもしろいことを伝える。
- ・もっと身近に本を置くこと。関心を引くしかけをすること。本を読むメリットをもっと宣伝すること。
- ・読書案内を行う。読書感想文以外でも、本を読んで答えたり文章をまとめたりするような課題を出す。
- ・授業や広報誌を用いて、本を紹介し続けると、ある時に、子ども達は興味を持ち、本を読みたくなると思う。自発性に思刺激を与える取り組みが必要であると思う。
- ・朝読書は、毎日ではなくても良い。週に1~2度、1回に30分くらいできると理想的と思う。
- ・家族や教師自身が本を読むこと=環境の影響力が大きいと思います。
- ・学校では朝読書の時間を設定する。
- ・電子書籍の導入。
- ・大人が、子どもを消費の対象として狙うのをやめる。
- ・家庭で小さい頃から本を読む教育をすることが大事だと思う。親が本を読む姿を子どもに見せることが大切だと思う。親子でいっしょに読書をする習慣など家庭教育が大事だと思う。
- ・特に思いつきません。
- ・漫画でもよいが、文字を読み調べるなどしないと、本どころか活字離れをおこすと思います。
- ・読書会などのイベントを企画。
- ・必要を感じたとき。
- ・子どもの興味、関心を調査し、手ごろに読める図書を購入するように努力する。
- ・環境をいくら整備しても、本人が読む意志が無ければどうしようもない。読む意志を育てるために親を教育する必要がある。1~2歳の絵本の読みきかせがどれだけ大切かを、今から親になる人達に知らせる。
- ・漢字の力をつける。
- ・活字がきらいな子どもが活字に興味をもたせること、声に出して読むことも大切だと思う。
- ・できるだけ小さい時から本に親しませる。本の読みきかせや読書の時間。
- ・幼い頃からの読み聞かせ等で本に親しむこと。
- ・家庭環境の格差(親の教育力、経済力)が大きくなっていることが原因なので、この原因をなくすこと。
- ・朝の読書等、教育活動に位置づけて習慣づける。読書会の開催、セミナー等、読み聞かせ、広報一本の紹介
- ・9の問いに対して、宇佐市がどのようにお考えなのかまずお聞きしたい。
- ・とりあえず好きな本を読んでみるという環境の設定。
- 親や教師が子どもに本を読んでいる姿を見せること。
- 学校の先生が、本を紹介したりすること(?)
- メディアが本の問題を多く提供すること。
- ・低年齢層にゲーム機、ケータイ等をもたせない。
- ・幼少の頃から読ませる。
- ・家庭で本を読むように指導する。
- ・図書館へ行くよう声かけや、特に家庭での取り組みは大切だと思います。
- ・読ませる環境作り。
- ・極論ですが、小さな頃から絵本の読みきかせなどをする事によって、図書館や本との距離を近くして いくしかないと思います。
- ・強制的にでも時間を作る。
- ・特になし。
- ・本を読むことが楽しいと思うための経験をなるべく幼い頃にさせること。読み聞かせや読書時間を保育

高校の先生

問9:どのようなことをすれば子どもたちが本を読むようになると思いますか？

園、幼稚園、学校で設けること。

・幼少時からの家庭での取り組みがもっとも大切。親の意識がないと、本を読むこと自体が文化として育たない。

・学校図書館の充実。

・幼少期の読み聞かせ、絵本からの導入をしっかりとやっていくことからまず取り組むとよいと思います。

・字が読めるようにしてあげる。

・小さいころからの読み聞かせ。

・難しい問題です。強制的に図書館に入れるような状況をつくること。図書館調べ学習などの多用。

安心院高校での未来探究科などの調査で図書(インターネット)に接する機会を多くつくる。

未来探究科など→このような課題設定の場をさまざまなシーンでつくっていくこと。

・実際に図書館に出向いてのオリエンテーションや、調べ学習での利用など。

本校では校内の掲示や「図書館便り」をはじめ、十分生徒の意識づけができています。

・時々、本の夢号を見かけるのですが、小学生たちは楽しみにしているように見えます。続けていって下さい。

・保護者を含めた取り組みが必要。

・分かりません。

・基本はやはり「レディネス」だと思います。いつもすぐ手元に本のある生活が不可欠でしょう。むずかしいことですが。

・面白い本はたくさんあるので本を読む時間を作り、本に興味をもたせる。

・小さい頃から本に触れさせる。(大人、親が意識して読みきかせや、自身が読書を楽しむ習慣を持つ)

・簡単な短い読み物から始めさせる。

・幼児期・・・テレビに子守をさせないで、親が子供にたくさんの言葉を語りかける。

学生・・・本に書いてあることを経験させる。

都度、都度、体験にからむような本の話、家庭では親が、学校では教師が紹介していく。

高学年では、学ぶことの中に、常に本を活かしていく(調べ学習)

・読書感想文等を書き、表彰するなどがあればよいと思います。

・読ませるのでは、興味を持って自ら読むことが大事なのではと思う。

・1日の生活の中で、読書の時間を決めて読書の習慣をつけるようにする。

・本の配達サービスなど。

・学校で読書の時間を徹底する。できれば30分くらい。

・日常の読書週間の定着を図ること。

・定期的に図書館につれて行く(週1回くらい)。しかし、運動部は時間がない。

・読書の力を伝える。本を身近に感じられるような意識づけ。

・私たちが悩んでいる。小さい頃から本になれたしむことが大切だと思う。

・強制的な読書の時間(学校用)をつくり読書の楽しさを教えて行くしかない。(低学年から始める)

・読書時間を学校で取り入れる事と新刊本を図書室に。

・毎日読む時間を与えること。興味があつたり、読書好きなら自然と読むが、興味がない生徒には途中まで読ませ、その続きが楽しみになったり気になると思うので、1冊の本を数日かけて読ませたら自然と読むようになるのではと感じた。

・本を子供たちの身近に置くこと。大人が読み聞かせなどして興味をもたせること。いい本を紹介できる環境をつくること。

・図書環境を整える。

・働きかけるしかないが、どうしてよいかわからない。

・むずかしい。携帯の文字は見ると思うが、なかなか、本を手にとらない。身近に、読みたい読んでみたいと思う本を設置しなければ、とも思うが・・・。

・小さい頃から文字に親しませる。読み聞かせを親がする。本や新聞などを与える。

・小学生の頃からの習慣づけ。

・強制的に読ませること。図書館の利用方法を理解させ気軽に利用できるよう指導する。